

地域に根ざした施設を目指す

触れ合って

絆の杜

支えあって

第29号 平成22年11月30日

発行所

社会福祉法人 光道園

鯖江 福井県鯖江市和田町9
TEL (0778) 62 - 1234 (代)
FAX (0778) 62 - 0890

朝日 福井県丹生郡越前町朝日22
TEL (0778) 34 - 1220 (代)
FAX (0778) 34 - 2099



ライトワークセンター陶芸部門では、来年の干支（夢卯）作りに日々励んでいます。ピョンピョン跳ねる「うさぎ」のように皆様が躍進されることをお祈願して!! 【ライトワークセンター・セルプー課】（撮影・大林康友）

主な内容

朝日事業所所長挨拶…………… P2

いっぱい触れていっぱい食べて…… P3

老施協ゲートボール大会に参加して・ P4

今年もキャンプに連れてって！…… P5

創立記念模擬店・鯖江事業所…………… P6

創立記念模擬店・朝日事業所…………… P7

クッキー工房 フ・クレール…P6～7

『訓練』を『楽しい時間』として…… P8

加賀もりだくさん日帰り旅行…………… P9

ボランティアとの絆⑥…………… P10

虹の橋合唱団…………… P10

ラック寄贈・わたぼうしコンサート… P11

開運干支「夢卯」 陶華星…………… P12



「食事考」

朝日事業所、所長、荒木博文

食事というと、食卓を囲む一家団欒の光景が目

浮かびますが、近年は、一家全員で食卓を囲むという
ことが少なくなつたと言われています。子供たち
も塾や習い事で忙しく一人で食事をしたり、朝から
スナック菓子などの自分の好きなもので食事をすま
せたり、朝食を摂らない子供たちも多いそうです。
また、「コンビニが都会のみならず田舎にもでき便利
にはなりましたが、子供からお年寄りまでの生活
を大きく変えたと言われています。特に老人世帯で
は便利さゆえに「コンビニ依存」が増えており、栄養過
多、偏重のため体調を崩される方もいるようです。
そして一方では、オーガニック、デトックス、有機・
無農薬野菜など食と安全、食と健康を意識した食生
活を実践している方も多くなるなど、食文化も多様
となってきました。

それでは、光道園の食事についてはどうでしょう
か？大きく変わったのは、集団に提供する「給食」
という考えから個々に対応する「食事」へと変わっ
たことです。一人ひとりの利用者の方にあわせて、
食事の形態や、量、嗜好など吟味し提供します。さ
らに、より専門的な見地から全利用者の方を対象に
栄養ケアマネジメントを実施しています。そこで、
食事の提供体制と栄養ケアマネジメントの関係を含
めて、光道園の食に対する変遷と全国的な流れを考
察し、光道園の食はどうあるべきか考えてみたいと

思います。

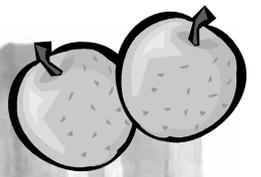
食事の提供主体として、光道園は創設以来、多く
の福祉施設がそうであるように、調理員を光道園の
職員として雇用し、食事提供（直営）を行ってきま
した。平成に入り、病院、数は少ないものの一部老
人施設でも業者への委託が広がり始め、介護保険制
度発足時には多くの施設が委託となりました。光道
園も平成十一年のワークセンター移転を契機に、平
成十六年にかけて順次委託に転換をしました。とし
て老人施設では、今まで調理業務のみの委託から食
材の発注を含めた全面委託を平成十八年度より実施
しました。しかしながら、現在の全国の状況は、施
設側が提供したい食事と委託業者の間のすれや、食
費が全額自己負担となったため利用者の方たちに満
足いただける食事提供、安心安全を意識した食事（地
産地消など）の提供など委託では解決できない状況
も出てきており、全面委託から、調理業務のみ委託
へ、委託から直営へと従前に戻る施設、委託を堅持
する施設に二極化してきました。

食事の提供方法や形態も大きく変わりました。適
時適温（一般家庭と同じ時間、温かいものは温かく、
冷たいものは冷たく提供）、五感に訴える食事（目
の前で調理し、匂いや音など感じていただく）、また、
調理に参加していただく）、身体状況に配慮した食
事（ソフト食、ムース食など形ある飲みみやすい

食事）、刻み食の廃止（誤嚥の防止）、口腔ケア（肺
炎の予防など）、栄養ケアマネジメント（個人の食
事形態や、カロリー、水分摂取などを管理）など多種
多様となりました。特に口腔ケア、栄養ケアマネジ
メントについては、ケアプラン、個別支援計画に組
み込まれており、食事に関わる専門職、管理栄養士、
栄養士、言語聴覚士、歯科衛生士が個々の状況に合
わせた支援を組み立て、介護職や看護職等と連携し
実施しており、成果も見られるようになってきてい
ます。しかし今一度、食に関して考えると、やはり、
安心安全で、残さず全部食べていただくおいしい食
事の提供が基本です。栄養ケアマネジメントもこの
基本をベースに、プランを作ることを目的化せず、
その方の生活全体を支援していくひとつのかかわり
であり、各支援が連携してこそのものであることを
忘れてはいけません。

十数年前、光道園がまだ直営であったころ、朝日
事業所の調理員を対象に内部研修を実施した折、講
師の福井大学の松木先生が「食事は、作った人の思
いも食べているんですよ。」と言われました。その
言葉が今も心に残ります。光道園の食のポリシーは、
委託にするにしろ、直営にするにしろ、利用者の方
の生きること、生活する
こと、人生に寄り添う支
援のひとつとして、利用
者の方一人ひとりの顔を
浮かべた食事提供にある
と思います。その実現の
ためには、適宜適切に判
断し、必要とあらば転換
も辞さない覚悟で望みた
いと思います。





いっぱい触れて いっぱい食べて

ライトワークセンター（セルプ一課） 鰐 淵 百合佳

平成二十二年九月二日（木）ライトワークセンターの利用者の方々十二名で、梨狩りと松島水族館への日帰り旅行に行ってきました。

この旅行では私の担当のTさんが参加されましたので、主にその方について書きたいと思います。

旅行の計画は約一ヶ月前より立てられ、当日までに何度か参加される利用者の方々が集まって話し合いをされてきました。日程やお土産をどうするかなど…旅行の話し合いも、利用者の方々にとっては楽しみの一つなんだなと私は感じました。

当日は、真夏のような暑さで天気は快晴、まさに旅行日和でした。梨園に到着し、Tさんと私は一緒に梨狩りをしました。一つの梨を一緒に採ってその場で皮を剥いて食べました。Tさんに「美味しいですか?」と尋ねると「美味しいわ〜」と満面の笑みで答えてくださいました。梨は一個でもかなりお腹がいっぱいになりました。一個食べ終えたところで、「もう一個食べますか?」と尋ねると「食べるわ〜」と言われ、結局三個食べられました。「いっぱい食べましたね」と声かけするとTさんは笑っています。またご自分で採られた梨をお土産にされておられました。



梨狩りを楽しめた後は、越前休暇村にて昼食を楽しまれました。メニューはミニ海鮮丼とおろしそばのセットでした。ちょうどいい量で大変美味しかったです。お腹も満腹になり、休暇村のロビーでしばらく休憩しました。

昼食を終えた後、午後は松島水族館へ行きました。私的なことですが…私は松島水族館へ行くのは幼稚園の時以来でした。入口を通ると目に入ってきたのは、ペンギンでした。Tさんはペンギンを間近で見ると釘付けになってしまいました。

松島水族館には、イルカショーやアザラシなどとの触れ合いタイムがありました。（他にも触れあえる動物はたくさんいました。）しばらくすると、イルカショーが行われる会場へと足を運びました。幼稚園児などの子供たちが多く来ていました。

イルカショーが始まり、Tさんは大きなイルカを目の前にしてまたもや釘付けになりました。時にはイルカがジャンプしたはずみで飛ぶ水しぶきがかかったりして、笑い声や歓声があがりました。またイルカは間近で見ると本当に大きくて、迫力がありました。イルカショーが終わった後、今度



はアザラシとの触れ合いタイムがありました。水中のアザラシは、職員さんの餌の声かけによってプールの水から上がってきます。アザラシが餌を食べ終えると、そのまま触れ合いタイムに移りました。Tさんと私がアザラシを見ていると、水族館の職員

さんが「どうぞ、触って下さい。」と言われたので、アザラシとの初めての触れ合いにドキドキでした。アザラシの体に初めて触れたTさんは、「すごいな〜!」と満面の笑みを私に見せてくださいました。Tさんの本当に嬉しそうな顔を見た私も、自然と笑みがこぼれました。触れ合いタイムが終わった後も水族館内を散策されたり、お土産を購入されたりしておられました。

一日を通して担当のTさんの笑顔をたくさん見ることができた私もとても幸せでした。

この旅行は、ライトワークセンターでは初めて取り入れられたコースでした。Tさんはもちろんのこと、いっしょに参加された他の利用者全員の方々も楽しむことができた旅行になりました。参加された利用者さんからは、「来年もまたこのコースを入れたいな。」との声もあがりました。

当日ご参加いただきましたご家族やボランティアの皆様、ご協力いただきましたまして本当にありがとうございました。

老施協ゲートボール大会に参加して

第一・二光が丘ハウス

(高齢福祉一課)

道端 秀和



平成二十二年

十月六日に福井市のすかつとラウンド九頭竜にて福井県老人福祉施設協議会ゲートボール大会が開かれました。

高齢福祉一課からは七名の利用者の方が参加されました。毎年、高齢福祉一課として参加は

また、今年には新たにメンバー三人が加わりました。

その内の一人であるHさんはゲートボール初心者でありながらもどんどんゲートボールのルールを覚えられ、上達されていくのが分かりました。練習時間にも一番乗りに来られている姿を見ると本当にゲートボールを楽しみにされているのがよく伝わってきました。また、もう一人の新しいメンバーであるMさんですが、最初はゲートボールにあまり興味なかったようですが、同じ出身地のHさんが頑張っている姿を見て自分もゲートボールをやってみようと思いはじめられたそうです。ゲートボールが利用者の交流の場にもなっており、とても良い雰囲気での練習されていました。また、ゲートボールの練習には所長や総務課長も加わり、戦術面や技術面の指導もしてもらい、経験のない利用者の方も熱心に練習に取り組まれていました。

してきましたが今年には当園敷地内に新しいゲートボールコートが八月に完成したということもあり、利用者の方の大会に対する意気込みも充分でした。大会の日程が分かってから、経験も豊富でチームリーダーのKさんを中心として練習が開始されました。練習の開始時間は午後三時三〇分からでしたが、今年はとても残暑が厳しく、三時過ぎになってもまだまだ暑さが和らがない中、利用者の方は練習時間が近づいてくると徐々にゲートボールコートに集まって来られ練習に取り組まれていました。大会に対する利用者の方の熱い思いが伝わってきました。

そして、いよいよ試合の日を迎えました。光道園を朝八時に出発し、到着したのは九時くらいでした。九時三十分から開会式で十時から試合開始のため三十分ほど練習する時間がありました。試合会場は屋内という事でコートがしっかりと整備されていて、ボールがいつもの練習よりも長く転がってしまつたため利用者の方も最初の練習ではやりにくそうでしたが、しばらく練習をすれば徐々に感覚をつかんできているように思えました。

そして、いよいよ試合が始まりました。試合の序盤で緊張されているのか、なかなか第一ゲートを通

過できない利用者の方が目立ちました。しかし、相手チームもなかなか通過せずわがチームは徐々にポイントでリードし結局九対六で勝利することが出来ました。今までの練習の成果が報われた瞬間でした。続いて第二試合が行われました。相手チームも同じく一回戦を勝利しており、一人ひとりの技術が高く安定したチームでした。しかし、わがチームも一試合目で調子を上げてきており、ナイスショットも多く見られました。しかし、実力では相手チームの方が一枚上手で結局、十五対十と健闘しましたが、惜しくも敗れてしまいました。結果は得失点差で決勝トーナメントに進むことは出来ませんでした。しかし、春に行われた光が丘杯ゲートボール大会に比べれば利用者の方

の技術も上がってきており来年が非常に楽しみです。なチームです。

最後に大会に向けて色々ご協力頂きました。すべてのの方に感謝申し上げます。有難うございました。



「今年もキャンプに連れてって！」

～六呂師高原キャンプ場編～

ライフトレーニングセンター（療護一課） 加藤 啓子



恒例行事になって四年目のキャンプ目的地は、日本で綺麗な星が見られるベスト3に入る六呂師高原に決定！

キャンプに行きたい方を募り、総勢十五名でマイクロバスに乗り込み出発です。キャンプ前から「もうすぐキャンプやねー！」と楽しみにしている利用者の笑顔と例年にない猛暑の中少し不安げな職員の顔を乗せてマイクロバスは勝山へ向けて走り出します。目的地までは2時間程、「腹が減っては戦も出来ぬ」とバスの中ではおにぎりをほおばります。

徐々に町並みは小さくなり山道になっていきます。窓からは何頭かの牛が草を食べている風景が見え、高原に

近づいてくると職員も利用者も胸がワクワクしてきます。

さすがに高原は涼しいのだろうとバスを降り第一声は「暑い～！」宿泊する部屋のクーラーを付けても全く涼しくなりません…。夕食までまだ時間も残り、暑い部屋にいてもバテちゃいます。よし！ミニ動物園にでも行こう！どんな動物がいるのかな？バスは走ります。道に迷ってしまいました。山道は迷路のように私達を迷わせたのです。看板を発見し、ようやく到着。ピカ！ゴロゴロ…。(この雲行きは…。)でも動物に会いたい私達はバスを降り歩きます。「風も出てきて涼しくなってきたね。」とウサギやポニーが見えた瞬間、ポツンと何かが頭に当たります。「雨だー」記念に写真だけでもとシャッターを押してすぐさま引き返します。こんな中、皆の顔は笑顔で、雨から逃げながらも笑い声が聞こえました。

夕食はバーベキューです。一緒に食材を運び準備をして香ばしい香りの中「おかわり！」「お肉！」とたくさんのお肉や焼きそばを食べました。お風呂で汗を流し、ちょっと一杯。アウトドアクラブで作った梅酒を飲んだら皆、上機嫌です。あんなに食べたお肉は何処にいったのやら、布団の上でお菓子を食べながらのんびり過ごし、虫たちの子守唄で就寝です。気持ちが高まって眠れないのか静かに起きている人や、いびきをかいて寝ている人と様々です。

高原の朝は気持ち良く静かで、空気も澄んでいて、自然の中で食べた焼き立てパンは最高で贅沢な時間を過ごせた気分でした。

帰りのバスの中「もう 帰るの？」とまだ帰りたくない利用者の声。「ちょっと寄り道してはいかがか。」と越前大仏でトイレ休憩。境内を汗だくになりながら歩き、大仏を仰ぎ皆で写真撮影をしました。



園の生活では感じる事が出来ない体験をしました。冷暖房の効いた快適な部屋では感じる事が出来ない自然の暑さを肌で感じ汗を流し、知らない土地での緊張感もまた良い経験になったと思います。どんな場所でも利用者は辛い顔一つせず、笑顔だったこと、一緒に行った職員も何かを感じ取れたと思います。

2010年夏、猛暑の中で雨に当たり、曇っていて星も見えなかったキャンプ。でも利用者は言います。「来年もキャンプに連れて行って！」と。



記念模擬店を終えて

鯖江事業所 9月12日(日)

昨年の創立記念模擬店は、感染症対応により縮小して行われた為、実行委員全員が「今年はどうする～」と考えて取り掛かりが大変遅れてしまいました。おおよその準備を進める



中テーマを「全身で感じる!! 全員で感じる!!」としました。参加者全員が創立記念模擬店で「何か」を感じて欲しいとの思いからです。利用者は勿論、地域の人達や参加者全員が楽しめる模擬店にしたいと企画を練りました。



外部の参加者(ボイスパーカッションチーム・バンド)を3グループ、毎年恒例の豊小学校の児童パフォーマンス、そして今年初めて日吉太鼓に出演をお願いしました。また、夜遅くまで練習を重ねた新職員バンド「ジョーズメ〜ズ」の参加もあり、太鼓や歌の凄さを感じられて楽しくにぎやかなステージになったと思います。実行委員や担当職員は、ぎりぎりまで各コーナー・ステージ・パチンコ・ボランティア関係等の準備に追われましたが、当日は天候にも恵まれ皆さんの楽しそうな笑顔が見られて「よかったな～」と思っています。



出演された方は「みなさんにパワーを貰いました。来年はもっと練習してくるので、また呼んで下さい。」と話されていました。出演者の皆さんも何かを感じて貰えたのだと嬉しく思います。

利用者の人達や地域、ボランティア、職員の皆様のご協力によりスムーズな運営が出来た事は大変感謝しています。ありがとうございました。



大好評

チーズケーキ

是非一度
ご賞味ください

しっとりとした濃厚な味わい。

お好きな形にカットしてクリスマスにいかがですか? シンプルに格安で冷凍のまま お届けしています。解凍後お召し上がりください。半解凍で アイスチーズケーキも格別の味わいですよ。

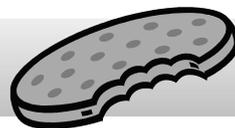
一枚 1,000円

ビデオテープぐらいの大きさです。

クッキー工房 フ・クレール

電話 0778-34-2121

FAX 0778-34-8005



朝日事業所 9月23日(祝)

光道園創立 53 周年

秋風が漂う中、利用者、ボランティア、職員等が交流を深め思い出に残る1日を過ごしていただく予定でしたが、秋の風とはほど遠い、近年にはない雨、風の天候になってしまいました。

しかし、ある意味思い出深い・・・？情緒ある・・・？記念になったのではないかと内心慰めの気持ちを抱いています。



さて、当日は各種団体のボランティアの皆様、保護者の皆様、職員の皆様のご尽力をいただき、利用者の皆様の幸せいっぱい笑顔がたくさん見られました。準備不足等いたらぬ点も暖かく受け入れていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。寒い日ではありましたが、各コーナーでは、心がほっと温まる1日を過ごせました。各コーナーの皆様ありがとうございました。

写真を厳選し掲載いたしました。これからも、写真にあるような笑顔を絶やさないように日々精進し利用者の皆様の幸せに向かって支援してまいりたいと思います。



社会福祉法人 光道園
創立記念模擬店

新しく
できました!

秋の実りクッキー

かぼちゃクッキー(手前) かぼちゃの種とくるみが入りました。
フルーツグラノーラ(奥) 木の实がたくさん ざくざく入りました。

今年もフ・クレールをご愛顧ありがとうございました。
クリスマス、お歳暮のご注文をお待ちいたしております。

一袋 100円



『訓練』を『楽』の時間とつくり

～Tさんとの歩行訓練を通して～

ライトホープセンター（援護二課） 眞家昌之

援護二課にTさんが入所してこられたのは、今年七月の半ば頃でした。初めてTさんにお会いした時は、新たに始まるホープセンターでの生活に不安と緊張でいっぱい表情で、ガッチリした体格がやや小さく思えたのが印象的でした。私はTさんの担当ではなかったのですが、視覚障害歩行訓練士の資格取得のための実習期間ということもあり、宮川課長をはじめ、班チーフ、担当職員からの協力もいただき、Tさんの歩行訓練を担当させていただきました。

歩行訓練士といってもまだまだタマゴで、実績もなく私自身も不安でしたが、Tさんと色々お話をさせていただき、「一緒に頑張っ行っていきましょう」ということで、お互い少し不安が解消できたように思えました。

まずはホープセンターでの生活に慣れていただくため、居室を基点としてトイレ・事務所・食堂・浴室・洗濯室といったTさんの生活に最低限必要な目的地までの往復と、便器の位置・食堂の座席・シャワーやカラコン、湯



船の位置等の配置・使用方法等を紹介しました。その中で、歩行に必要な基本姿勢や防御・伝い歩き・方向の取り方・手の使い方など基礎的な技術を指導していくのが歩行訓練のセオリーなのですが、Tさんはこれらを盲学校で既に習得されており、非常に高い技術をお持ちでした。

Tさんとの会話の中では「ワカ先生（盲学校の歩行訓練士の先生）」という先生が良く登場するのですが、Tさんは「ワカ先生」から在学中に歩行訓練を受けられたそうで、Tさんの技術と、技術の定着に至る「ワカ先生」の指導力の素晴らしさを見せていただきました。それと同時に、Tさんを支援してこられた「ワカ先生」からの『バトン』を受け取り、支援者として、また歩行訓練士として身の引き締まる思いを実感しました。

その後、Tさんは館内をほぼ自由に歩き来できるようになり、自信も持たれたようで、入所当初の不安で緊張した表情も次第に明るくなり、職員・他の利用者さんとも積極的にコミュニケーションを持たれるようになりました。今思えば、技術の習得も大切ですが、これが何よりの成果だったように思います。

訓練もいよいよ屋外に出て、白杖操作技術の向上を目的に、近くの道の駅を便宜上の目的地として設定し実施しました。しかし、今年の夏は全国的に記

録的な猛暑となり、炎天下の中での歩行訓練は非常に厳しいものでした。連日、新聞やニュースでは熱中症や熱射病が報道され、Tさんの体調も大丈夫かと心配もありましたが、Tさんの「訓練をしたい」「次の訓練はいつ？」という気運

よりも高い熱意に、逆に私の方が励まされました。歩行訓練の時間は1～2時間程度ですが、二人とも汗でビショ濡れ、日焼けして真っ黒になりながらも目的地の道の駅（自動販売機）を目指し、冷たいジュースにホッと一息入れながらお互いマンツーマンで色々な話が出来ること、歩行訓練の一つの醍醐味なのかも知れません。

『訓練』というところ、どこか厳しい、辛いというイメージがありますが、私の訓練では、まずは楽しいと思えることを大前提に、『訓練』＝『楽しい時間』として利用者さんと共有していきたいと考えています。先にも述べましたが、私自身歩行訓練士としてまだまだ駆け出しで勉強の毎日であり、Tさんとの歩行訓練を通じて、歩行訓練士の養成機関では学べない貴重な実習をさせていただきました。光道園で実施している歩行訓練が、単に歩行に必要な技術の習得だけでなく、そこから様々な形で利用者さんの生活の幅を広げていける「きっかけ」となるよう努力していきたいと思えます。



加賀もりだくさん日帰り旅行

光が丘ワークセンター（セルプ二課） 秋本美紀

九月二十九日晴天の下、光が丘ワークセンター利用者の方十一名と、ボランティアの方も含めた職員九名で、日本元氣村・山城温泉ゆのくに天祥・加賀フルーツランドへ日帰り旅行に行ってきました。日本元氣村は昔、時代村だった場所の施設をそのまま使用した施設で、今は様々な演劇をやっている、『演劇を見て元気になるって良かったこう！』という施設になっています。まず入り口では日露戦争の際にバルチック艦隊との戦いで活躍した、戦艦三笠が迫力ある姿で迎えてくれます。到着して最初に戦艦三笠の劇を観劇しましたが、役者の方が実際に三笠に登ってセリフを言うので、なかなか迫力がありました。スタッフの方が、『劇



の最後に大砲が鳴ることを、前もって利用者の方々に伝えておかれた方が良かったです』と言われたので利用者の方々に伝えることができました。事前情報が無かったらみなさん腰を抜かしてしまう程の大きな音でした。利用者の方々は「ビックリした！」と言いつつも楽しそうに笑っておられました。三笠の観劇の後は自由行動で、ほとんどの利用者は施設内で行われている劇を見に行かれ、私が担当させていただいた利用者の方は展示されている戦艦三笠の中へ入り、甲板で記念撮影をしました。とても高く狭いので、乗組員の人達は大変だっただろうなと思いました。その後は水木しげるショップへ行きました。全国でも数か所しかないらしく、結構な品ぞろえで、利用者の方は鬼太郎のストラップやハンカチ等を買われたりし、光る目玉のおやじも欲しそうでした。が、値段が高くて手が出なかったようです。その後、山城温泉でおいしい料理を食べたり、温泉に入ったり、友人や自分へのおみやげを買ったりしてゆったり過ごされていました。料理は、刺身やステーキなど食べきれない程の量で、利用者の方々は「とてもおいしかった」とのことでした。温泉の建物の中が複雑で、多少迷ったりしましたが、温泉のお湯もとても良く、特に露天風呂が広くて大変気持ち良く浸かる事ができ、利用者の方々の日頃の疲れを癒すことができたのではないのでしょうか。温泉でゆつく

りした後は、加賀フルーツランドへ行き、旬のぶどう狩りを楽しみました。ぶどうの種類がデラウエア、マスカット、ブラックオリンピア、と3種類あり、味や固さや色の違いが楽しめて、とても喜ばれました。昼食後で、利用者の方々はそんなに食べられないかと思っていました。一人ですく四房程食べられたり、もういいと言いながらも、結構食べられています。自分で頭の上にあるぶどうを取ったり、取ってもらったり、黙々と食べたり、おみやげに家族へぶどうを送ったりする姿も見られ、とても美味しかったのだと思います。光が丘ワークセンターの利用者の方々は、日頃一生懸命作業をしておられるので、今回の日帰り旅行で、楽しんでいただき疲れを癒されて、また明日から頑張ろうというお気持ちになっただけなのではないのでしょうか。





ボランティアとの絆シリーズ⑥

花づな読書会

代表 内藤尚子

思いおせば光が丘の光道園さんと私のご縁は20年にもなろうかと思えます。ありがとうございます。

花づな読書会は平成8年、友人の「本の読み聞かせでボランティアができないかしら？」との一言から発足しました。メンバーは4～5人で、はじめは不定期に入所者の方のリクエストで『野菊の墓』や『里見八犬伝』など朗読・・・そのうちに光道園さんから、毎週1回クラブ活動として来て欲しいとのお話があり、今では本読みの合間に昔話をしたり童謡をうたったりしながら楽しんでおります。

「花づな」という読書会の名前は、人の心の中にある、ありがとうという花の種を咲かせてつないでいこうという意味です。本読みの仲間、にこにこ聞いて下さる皆さん、職員さんの温かい声かけと明るい笑顔に支えられ14年間続けて来られたと感謝しております。又、私にはもう一つの朗読ボランティア「おはなしあい愛」、吟舞と琴の慰問、買い物、音楽会、食事会、1日旅行、夏祭り、創立記念模擬店などなど楽しい出会いと思い出がいっぱいです。

本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

合唱交流会 ~ようこそ!虹の橋合唱団様~



人の心をときほぐす優しく不思議な力を持つ音楽で、光道園の利用者の方と楽しいひとときを共有できたら・・・というお気持ちで交流会のお話をいただきました。

お声をかけていただいたのは、「虹のはし合唱団」様!

9月25日(土)40名の団員のかたを迎え、合唱交流会が行なわれました。

軽快な歌や迫力ある歌、また踊りを披露してくださり、豊かな表情もとても印象的でした。先生にマイクを向けられ、普段人前で歌うことのなかった利用者の方が笑顔で歌っておられる光景

も!!職員にとっても嬉しい出来事となりました。

虹のはし合唱団の皆様、素敵な交流をありがとうございました。



★西宮 尚美

- ①B型
- ②おひつし座
- ③ソフトバレー、通販
- ④「踊る大捜査線 THE MOVIES」
「チームバチスタの栄光」

高齡福祉一課

朝日事業所

- ①O型
- ②やぎ座
- ③片思い
- ④「七人の侍」

★水島 憲一

セルプ一課

鯖江事業所

★氏名

- ①血液型
- ②星座
- ③趣味
- ④好きな曲

新任職員の紹介

平成二十二年七月～十月採用

感謝いたします！ディスプレイラック寄贈



ろうきん鯖江地域推進委員会様より“ディスプレイラック2段積み”を寄贈していただきました。ろうきん鯖江地域推進委員会様は、働く仲間がつくった・営利を目的としない・生活者本位に考える協同組織の福祉金融機関「ろうきん」を支援する団体です。毎年、地域や社会への貢献活動を推進して活躍されておられます。

今回ご寄贈いただきましたディスプレイラックは収納とディスプレイを兼ねたもので、点字本などを置いて障害者の方にも手に取りやすいように工夫してあります。

平成22年9月15日（水）に贈呈式を行いました。



土肥園長と利用者代表の方がろうきん鯖江地域推進委員会の 委員長 高居繁輝様より贈呈を受けました。利用者の方は、さっそく仕様説明をお聞きになり、使い勝手を感じておりました。本当に有り難うございました。

第2回 鯖江わたぼうしコンサートに参加して

ライトワークセンター（セルプー課） 橋本 妃富美

その知らせを聞いたのは、8月の中旬でした。井波さんのうれしそう、ちょっと恥ずかしそうな声で、「あのな、わたぼうしコンサートに私の詩が通ったんやって。」今まで、4・5回挑戦していたのですが入選することはなく、もうそろそろあきらめモードが漂っていた時期の朗報でした。井波さんの喜びもひとしおだったようです。とても明るい大阪のおばちゃんを自認する井波さん。自費出版した「ねずみの天使」や、定期的に投稿している愛実の機関紙のポエムコーナーで独自の詩の世界を広げてきたのですが、今回の入選作品「シャボン玉」も、ほんわかとした優しさにあふれた井波ワールドあふれる作品でした。どんな曲が付くのか、ドキドキしながらも何を着ていこうか、今ある服でいいかしら、買い物はどうしよう、当日はどんな事が待っているのかしらと女性らしい悩みと期待があふれる2ヶ月がすぎて本番となった

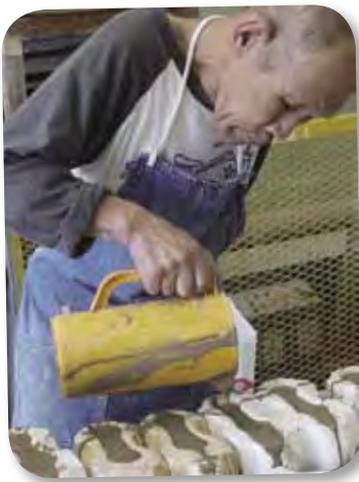
11月7日。

リハーサル場で初めて作曲家の黒田実さんとお会いし、自分の詩に付いた曲を聴いた時、その優しいギターの旋律に自分の思い描いた以上の曲の出来だと感激し、目にはうっすらと涙が溜まってくる状態でした。横で付き添う私までがもらい泣きしそうなくらい、静かな感激の時が過ぎていきました。老人施設で介護師の仕事に付いていらっしゃる黒田さんは、地元神明地区の好青年。静かで優しい男性なのですが、どうも夜になるとJR鯖江駅の地下道やアルプラザの駐車場でストリートファイターに変身するらしいのです。今回は依頼を受けて、入選作の中から一番ピンときた井波さんの詩に曲を付けてくださり、歌も担当していただきました。やさしくほんわかした詩に、僕なりの曲を付けてみましたとの説明を聞き、思わず「ありがとうございました」と握手する井波さん。

まだまだ緊張の場面は続きます。今度はインタビューのリハーサルです。事前に、家族の事や今までの生き方などについての問い合わせがあったのですが、この辺は井波さんの独壇場と思いきや、やはり初めての体験の為かドキドキの連続でした。そして迎えた本番。じっと黒田さんの歌に耳を傾けて聞きいっています。会場も黒田さんの歌声に聞き入ってシーンとしています。黒田さんの歌の終了と共に起こる拍手に、井波さんの表情もほっとします。「とても幸せな時間やったな。信じられへんわ。私の詩にあんな優しい曲が付いて、大勢の人に聞いてもらえるなんて。まだまだやわ。他の人の詩はすごい。私ももっと頑張らなあかんって思ったわ。」アットホームなわたぼうしコンサートが終了し、ほっと一息付いた時の井波さんが今の気持ちを表した言葉でした。黒田さんからいただいた「シャボン玉」のCDと、一緒に撮った写真は一生の宝物となったのではないのでしょうか。とても幸せな時間。この一言が、井波さんのなにもものにも替えがたい気持ちを表しているのではないのでしょうか。これからも幸せな時間がたくさん、井波さんのもとに訪れる事を願っています。

開運干支「^{うさぎ}夢卯」

一年の幸せを祈願いたします。
のぞみ工房 陶華星



のぞみ工房 **陶華星**

〒 916-8585 鯖江市和田町 9-1-1 光道園ライトワークセンター内「陶華星」
TEL : 0778-62-8103 FAX : 0778-62-3775

社会福祉法人 光道園の施設		養護老人ホーム・第一光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
社会福祉法人 光道園 法人本部	鯖江市和田町 9-1-1	養護(盲)老人ホーム・第二光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトワークセンター	鯖江市和田町 9-1-1	特別養護老人ホーム・第三光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・光が丘ワークセンター	丹生郡越前町朝日 22-2-2	通所介護事業所・ デイサービスセンターさざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトホープセンター	丹生郡越前町朝日 22-3-1	訪問介護事業所・ヘルパーステーションさざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライフトレーニングセンター	鯖江市和田町 9-1-1	居宅介護支援事業所・さざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
日中生活介護事業・たねのいえ	鯖江市和田町 9-1-1	越前町障害者支援センター・さざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1